

胃カメラ(上部内視鏡検査)とは？

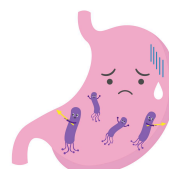
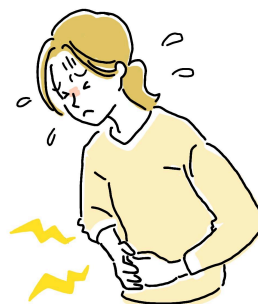
～「苦しそう」から「安心・納得」の検査へ～

胃カメラは、食道・胃・十二指腸を直接観察し、病気の早期発見や原因特定を行うための検査です。現在は機器の小型化と工夫により、以前よりもずっと楽に受けられるようになっています。

■ 1. 胃カメラは「どんな時」に受けるべき？

以下のようなサインやタイミングがあれば、受診をお勧めします。

- 気になる自覚症状がある：
 - 繰り返す胃痛、みぞおちの痛み
 - 胸やけ、喉の違和感、酸っぱいものが込み上げる
 - 胃もたれ、お腹の張り、食欲低下
 - 黒い便が出る(胃からの出血のサイン)
- 健康診断で指摘された：
 - バリウム検査で「異常あり」と判定された
 - 血液検査で「ピロリ菌」や「胃がんリスク」を指摘された
- 特に症状がなくても受けるべき方：
 - **40歳以上**の方(胃がんリスクが高まる年代です)
 - ご家族に胃がんやピロリ菌感染者がいる方
 - お酒やタバコを日常的に嗜む方



■ 2. 胃カメラで「どんな病気」がわかるのか？

直接モニターで粘膜を確認するため、バリウム検査では見つかりにくい微細な異変も発見・診断できます。

- がんの早期発見：胃がん、食道がん、十二指腸がん
- 不快な症状の原因：逆流性食道炎、胃潰瘍・十二指腸潰瘍、胃ポリープ
- 胃炎・ピロリ菌：慢性胃炎、将来のがんリスクを判定する重要な指標です
- その他：アニサキスの除去や、胃からの出血の止血処置。

■ 3. 「つらさ」を抑え、楽に受けるための工夫

「検査が怖い」という不安を解消するため、当センターでは以下の配慮を行っています。

- 驚きの細さ(経鼻内視鏡)：鼻から通すタイプは直径わずか**5mm程度**。舌の付け根に触れないため、吐き気(オエツとなる反射)がほとんどありません。検査中に医師と会話も可能です。
- お薬によるリラックス効果(鎮静剤)：当院では、検査の苦痛を和らげるためのお薬を使用します。基本的には「リラックスした状態で、モニターを見ながら説明を聞ける」程度の鎮静を行います。不安が強い方には必要に応じて「眠っている間に終了する」ような調整も可能です。
- 丁寧な事前説明：内視鏡センター専属の看護師が検査の流れを事前にしっかりご説明し、疑問を解消してからリラックスして臨んでいただけます。